

# 「私の歩き遍路」

特別寄稿 重康邦夫

**樋口会員の連載「歩き遍路の旅」の感想を兼ねた紀行文を戴きました。重康氏は長船で「歩く会」を立ち上げられ、私（编者）も参加させて戴いた、ご縁で”きび考”の読者の一人として特別寄稿を戴きました。**

“きび考”9・10号を送って戴き有難うございました。到着した日から就寝前に1時間程度ずつ読ませていただいておりますが、読み終わるのはこれから10日以上かかりますので、とりあえずお礼を述べさせていただきたく筆をとりました。……まだ2割程度しか読んでいませんが、「私の妻は四国遍路をしています、般若心経を誦んじるだけでなく……」というくだりを見つけてほっとしました。

今から約25年ほど前なので、私が40歳後半から50歳前半にかけての頃のことですが、高校の教員仲間4人で夏休みと冬休みに3泊4日ずつ11回かけて、四国八十八ヶ所の歩き遍路をしたので、四国八十八ヶ所という語句を見つけると、ビビビ・・としびれる感覚になります。その次にしかし私は般若心経の教本を見なければ唱えることができなかつたと反省してしまいます。

次に私たちが立ち上げている「歩く会」が坂根登山口→熊山遺跡コースで、4月にウォーキングの会を開催し、遺跡研究家の岡野進さんに遺跡とか、秦氏のことを教えていただいたので、9号・10号の山田良三さんの「吉備と秦氏」、井上秀男さん「熊山遺跡について」、丸谷憲二さんの「熊山遺跡とバアン仏教遺跡」については岡野進さんに頂いた資料と読み比べながら、じっくり勉強させていただきたいと思っております。

そんなわけでとりあえず、樋口俊介さんの「歩き遍路の旅」についてだけ感想を続けさ

せていただきます。

前回に頂いた資料では四国遍路の一番の難所とされている、徳島県日和佐町にある23番札所薬王寺から高知県室戸岬にある24番札所最御崎寺までの85キロを1泊2日の2回で歩ききったと書かれているのを読み、私たちより数段上だと感じました。

私たちは車で乗り合わせて出発点まで行き、車を預け、4日目に最終点から出発点までタクシーでかえるという方法だったので、難所の85kmは歩いていません。10号に書かれている、歩き20km札所0ヶ所、1泊2日歩き37km札所0ヶ所の記録を読ませていただいて、強い決意で歩かれていることを感じました。また私たちの誰かが日記に書き残しているかは確かめていませんが、私は88ヶ寺のお経の受領印をいただいて掛け軸をつくることに気がとられ、記録を残さなかつたことを残念に思っています。

一つだけ覚えていることは、昭和62年の夏だったと思いますが、室戸岬から西へ西へと、太平洋の波を眺めて歩いた時、「この美しい景色を詠んだ俳句を作り夕食のとき披露しあおう」と提案する者があり、甲子園で関西高校快進撃ベスト8進出放送を聞きながら頭を悩ましたことを覚えています。どんな句をつくったかは覚えていませんが、4人とも次の日は「今日も」と言い出す者は居ませんでした。

樋口さんはすでに30回四国に出かけられ頑張られたわけですが、やっと半分というところだと思います。樋口さんの記録はこれから遍路を目指す人の道標（みちしるべ）になると思いますので健康に留意し頑張ってくださいることを願います。